

公益財団法人 日本体育協会公認  
山梨県スポーツ指導者協議会

# 会報

第25号 (平成27年3月発刊)

## 目次

会長あいさつ .....	1
中高一貫指導体制づくり .....	2
駅伝指導から学んだ指導者の姿勢 .....	3
研修会の報告 .....	4~5
山梨県スポーツ指導者協議会表彰 .....	6
日本体育協会公認スポーツ指導者表彰 .....	7
事業報告・事業計画・あとがき .....	8



26年度山梨県スポーツ指導者協議会特別研修会 (H26. 11. 24)

あいさつ



会長 若尾 重廣

(柔道コーチ・空手道上級コーチ・ジュニア  
スポーツ指導員・アシスタントマネージャー)

会費を納めていただいている指導者を対象とした「特別研修会」を始めて二年目となる今年には、「アンガーマネジメント」についての研修会を開催した。

少し聞き慣れない言葉であるが、anger(怒り)をmanagement(統御)することで、怒らないと言うことではなく、「怒る必要があるときは上手に怒り、必要がないときには怒らないようになること」の意味である。怒るものか、怒らないものかの区別ができない状態で感情にまかせ怒ることが問題であり、この様な状態での「怒り」は、暴力やハラスメントに繋がってしまう。

日本体育協会では、平成二十六年の七月に、「公認スポーツ指導者処分基準」を施行した。内容は非常に厳しいもので、「しごき」や「追い込み」などの不適切な指導、暴力、ハラスメントの項目があり、「注意」から、「厳重注意」、「資格停止」、「資格取り消し」の基準が示されている。

私たち指導者は、「程度の問題」ではなく、「絶対にしてはならない」行為というものを胸に刻み、この処分基準に触れることのないように、指導していくことが大切である。

このような指導が、有資格者の地位を更に向上していくものと、私は考えます。

# 「中高一貫指導体制づくり」



山梨県アーチェリー協会

理事長 吉成

謙

長崎県で開催された第六十九回国民体育大会において少年女子団体が三年ぶり三度目の優勝を果たすことができた。ご支援ご協力をいただいた皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、今回少年女子が日本一を獲得できた要因を振り返ってみたいと思う。本協会の取り組みが少しでも皆様方の参考になれば幸いです。

まず始めに取り組んだことは、中高一貫指導体制を整える事である。中学生の段階でひとりでも多くの生徒にアーチェリーを経験させることが大切であると考

え、中学生の強化に重点を置いた。県内にはアーチェリー部は数島中学校しかなく、中学校で専門の指導者はひとりしかいない。幸いその指導者が数島中学校に着任したことで、より多くの生徒が基礎を学べる環境が整った。次に高校の受け皿の問題である。東海大甲府高校・甲府城西高校の協力のもと、それぞれの学校に部・同好会を設置していただいたことで、強化指定運動部である甲府一高を加えた三校で中学生の受け入れ体制ができた。中学校の



1

経験者が高校でも継続して練習できる環境が整ったわけである。しかし、各学校に練習場はなく指導者も少ない。この事が結果的に「チーム山梨」として中

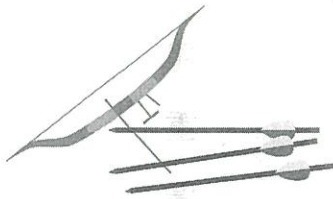


えている。指導者も選手も「チーム山梨」としての意識をもって練習に取り組んでいることがここ数年全国で好成績を残すことができた要因である。

今後の課題としては、現在の体制をいかに維持していくか、若い指導者の育成、小学生の指導体制づくり

高一貫指導体制が整う事となる。それは、県内唯一の練習場である県営緑が丘洋弓場に放課後になると各高校から生徒が集まり合同練習を開始する。指導者も学校に関係なく指導をする。また、週末には中学生も加わり緑が丘洋弓場を拠点として総合型地域スポーツクラブと部活動を融合したような特徴的な強化体制ができあがった。この事が現在の競技力につながったと考

えたい。様々な課題がある。これらの問題をひとつずつ解決しながら、二〇二〇年の東京オリンピックに向けて「チーム山梨」から選手を輩出できるようにがんばっていききたい。



# 「駅伝指導から学んだ指導者の姿勢」



山梨県教育庁 スポーツ健康課  
主幹・体育主事 上田直人

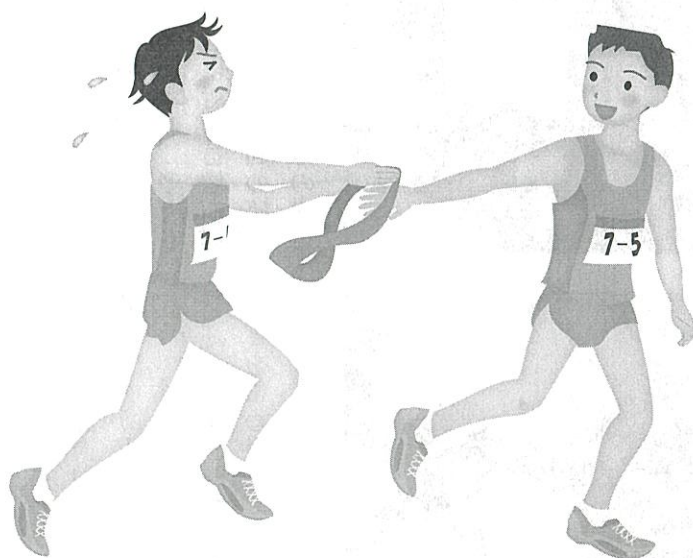
平成十七年十二月十七日、関東中学駅伝十五位の八田中学校が、全国中学駅伝第三位という奇跡的な走りゴールテープを切った。閉会式の表彰台では、今まで経験したことのない景色、特に自分の指導を振り返って見えてきた景色を見させていただいた。この出来事は、その後の私の指導人生を大きく変えるものであり、ここまで失敗と試行錯誤を繰り返した私の部活指導に、一本の光が差しように道筋を示してくれた。

私は、選手を伸ばすための大切な要素は、自信を付けさせることであると考える。特に長距離走の練習では、ペース設定によつ



の強度の練習をさせると、途中でリタイヤして自信を無くしてしまい効果も上がらない。これでは力が付くわけがない。試合はこの延長戦上であり、練習で積み重ねた走力と自信を指導者がしっかりと見極め、課題と目標を明確に提示してこれをクリアした時に、選手は大きな自信を手にし、指導者は選手からの信頼を手にすることができると、

また私は、選手たちに「当たり前」のレベルを上げろ」と言い続け、生活面も大切に指導してきた。このことは、物事に対する姿勢を正しくする重要な要素であることは言うまでも無い。日常生活の様々な「当たり前」の行動をレベルアップしようとして生活し、レベルの高い生活が「当たり前」と感じるようになると、練習や試合に取り組む姿勢も自ずとレベルの高いものになる。そしてこれは、我々指導者も同じで、指導者自



身が自分を変える努力をし続ける姿勢を示すことで、選手に発する言葉が重みを増すのである。

二度の全国優勝で選手たちは「先生の言った通りになる」と私のレースプランを信じ、設定タイムにも「絶対いける」と自信を持って臨み、見事日本一に輝いた。このことは、指導者の指導の過程で発する様々な言葉が「励まし」あるいは「激励」「支え」となつて届くような信頼関係を三年間積み重ねた成果であると感じている。指導者は選手を育て、選手から育ててもらったものなのだと思ふ。感じた次第である。

# 研修会の報告

## 「第一回スポーツ指導者研修会に参加して」

峡北支部

浅川 幸彦

(綱引指導員)



平成二十六年六月七日(土)、この研修会に参加し、ヴァンフォーレ甲府監督であった塚田雄二先生の講演を聞き、スポーツの素晴らしさを改めて感じた。その中で特に印象に残っているのが「知識は意志決定の基礎となる」という言葉である。自分の思っている事を素直に伝える事は簡単な様であって難しい事だと言える。

より良い指導者を目指す

には、より多くの知識を身につけ大局的に物を見る目を養い、相手の立場を考え、思いやりを持った指導が大切であると改めて考え直す良い機会となった。

塚田先生の言われた「夢があるから強くなれる」この言葉を胸に指導者としての道を歩んでいきたい。

また、朝比奈先生のインナーマッスルの鍛え方も大変勉強になり早速練習に取り入れている。



## 「第二回スポーツ指導者研修会に参加して」

東山梨支部

伊藤 正江

(バレーボール指導員)



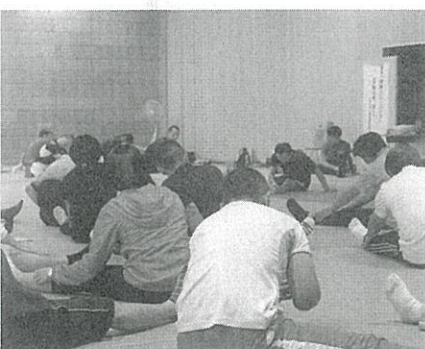
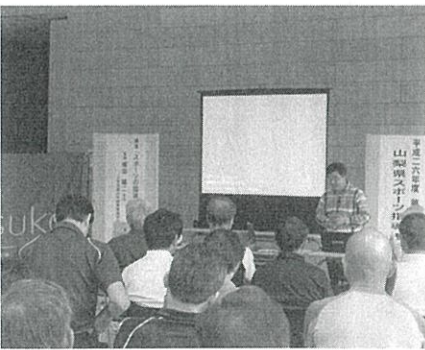
今、子ども達の体力低下が、問題になっている。スポーツを始めようとする子どもが少ないのが現実だ。私が指導しているバレーボールも同様である。チームの中に小学校一年生から六年生まで在籍してい

るチームも少なくない。技術的にも体力的にも差があり、指導も難しい。初めてスポーツを始める子ども達に如何に遊びのように楽しく継続させるかが課題だ。

今回の塚田雄二先生の研修会で、育成コーチングについて学ぶ事ができた。改めてコーチングに対する考えを見直す機会を得た。目標を皆で共有し、年齢に応じた個々の技術の向上を目指し、精神的自立を目指す。良い習慣を身に付け、良いスポーツを追求し、子ども達の指導者に対する信頼を裏切らない。年数回の研修会に出席し、先生方の講習



を受け、学んできたことで、塚田先生の「育成コーチングの哲学」が少しではあるが理解できた。今後の指導に生かしていきたいと思う。終わりに「指導者は学ぶことを忘れてはならない」(塚田先生)



### 「第三回スポーツ指導者 研修会に参加して」

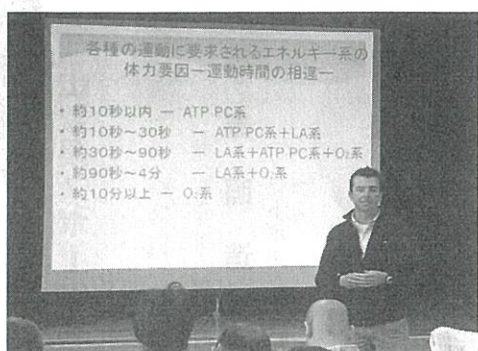
峡南支部

磯野 澄也  
(山岳上級指導員)



今回参加した研修会の内容は、私の分野の登山とは異なるものの、別の視点から有益であった。

講演は山梨学院大学女子ホッケー部監督のジョンパトリックシアン先生でその



指導方法についての講義であった。オーストラリア出身で天理大学にてホッケーとの出会いがあり今日に至っている。特に「最初に出会ったコーチは何より大切」は、全スポーツの共通事項であり、指導される側に将来にわたり大きな影響を与えるため、指導者自身の普段の資質向上の必要性をより感じた。



実技はヴァンフォーレ甲府アスレティックトレーナーの朝比奈茂氏で、体幹トレーニングの指導を受けた。人体を区分すると体幹部・体肢に分かれ、その体幹とは首から下肢までの胴体部分の総称であること知らなかった。目的は関節部を固定し重心を安定することにより効率良いスポーツに繋がるもので、実践にて普段使わない筋力の活用の重要性を感じた。僅か半日の一部研修であったが、習得した事項を実践していきたい。

### 「山梨県スポーツ指導者協議会特別研修会のご報告」

活動促進部

部会長 畑 警 吾  
(剣道指導員・クラブマネジャー)



平成二十六年十一月二十四日小瀬武道館第一会議室に於いて平成二十六年度指導者協議会特別研修会が催された。

この特別研修会に於いては、できるだけ受講者にとつてメリットの多い内容をと計画されてきた。そのことから、今回は多少耳新しいところのアンガーマネジメントを取り上げることとなった。講師には日本アンガーマネジメント協会ファシリテーターの木村正宏氏をお招きしてアンガーマネジメントの初歩的な考察の方法を講義していただ

いた。内容はさすがに新しい発見の連続であった。今までの指導法の中でも心理的な感情を抑える必要性などの考え方については多少触れられてきたが、それをもっとロジカルな考え方によつて、怒りを、あるがままに受け入れて、しかも、効果的にコントロールしていく方法など、指導者のコミュニケーションスキル向上に非常に重要な講義であった。活動促進部としても今回の内容と成果を踏まえて、更に興味深い企画を推進していきたい。



平成二十六年 度

「山梨県スポーツ指導者協議会表彰」

功 労 者

小 澤 照 造

(ソフトボール上級指導員)



内 藤 ま す み

(テニス指導員)



野 呂 瀬 秀

(スポーツプログラマー)



保 坂 い お り

(水泳指導員)



初 鹿 野 美 則

(ソフトボール上級指導員)



内 田 建 也

(剣道指導員)



半 田 昌 一

(陸上競技上級コーチ)



岡 村 勝 幸

(ソフトテニス上級コーチ)



山梨県スポーツ指導者協議会

表彰を受賞して

組織財源部 部長 内 田 建 也

(剣道指導員・アシスタントマネジャー)

この度、山梨県スポーツ指導者協議会の県公認スポーツ指導者表彰を受賞した。

この協議会に入り既に十年が経過したのかと、月日の経つのが早いのおどろくと同時に、果たしてこの表彰に値する業績があったのかと、自問自答しているところである。

私は県スポーツ少年団の推薦を受けスポーツ少年団の代表としてこの協議会に入ったので、比較的日子が浅く最初に会議で発言したのが「この協議会が認知度が低くどのようにしたら認知度を高めることができるのか」と議論したのを今のことのように記憶している。そしていつの間にか組織財源部会長となり昨年(平成二十五年)は県内の未組織の二支部の中の峡北支部の再始動に奔走し関係者の皆様のご協力によりこれを成し遂げることができた。



今年に残された一支部北都留支部の再始動に取り組もうと思う。組織財源部会の事務分掌は①支部に関する事(組織の立ち上げ等)と②財源の確保が最も重要な仕事であり、これは協議会の根幹をなす重要な分掌と心得ている。この分掌に誇りを持って、これからも全力を尽くして目的達成の為に邁進していく所存である。

平成二十六年 度

「公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰」

指導者



小澤 照造 (ソフトボール上級指導員)



内藤 ますみ (テニス指導員)



野呂 瀬 秀 (スポーツプログラマー)



保坂 いおり (水泳指導員)



初鹿野 美 則 (ソフトボール上級指導員)



平成二十六年 度公認スポーツ指導者全国研修会開会式席上において、標記の表彰式が執り行われ、山梨県体育協会・山梨県スポーツ指導者協議会より推薦された受賞者5名と、県役員2名、笛吹支部

日本体育協会公認  
スポーツ指導者表彰を受賞して

笛吹支部 理事 小澤 照造  
(ソフトボール上級指導員)

役員6名が参加した。

開会式・表彰式等を挙行し、続いて特別講演を行い、講演として、指導者と選手の絆、ワークショップ、インフォメーション等、実質的豊富なスポーツの意義・価値観、指導者としての役割、プレイヤーとの関係、そして楽しいスポーツ活動の実践、さまざまな指導者としての在り方等、具体的な講義がなされた。

今後、指導者として今回得た事を参考にして運営していきたい。この機に一段と推進し、実行して行く所存である。



平成26年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告

年	月日(曜日)	事業名	会場等
平成26年	4月5日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	小瀬中銀スタジアム他
	4月25日(金)	平成25年度 会計監査	小瀬管理事務所会議室
	5月16日(金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月21日(水)	第1回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月7日(土)	平成26年度 山梨県スポーツ指導者協議会総会 及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月11日(金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	7月16日(水)	第2回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	10月4日(土)	第2回研修会	塩山ふれあい館
	10月31日(金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月5日(水)	第3回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	11月24日(月)	会員特別講習会	小瀬武道館第1会議室
	12月12日(金)	平成26年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
	12月13日(土)	平成26年度公認スポーツ指導者等表彰式 全国研修会	東京都
平成27年	1月24日(土)	第3回研修会	富士川町民会館
	2月13日(金)	第4回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	2月18日(水)	第4回理事会・専門部会	小瀬武道館第2会議室
	3月31日(火)	会報第25号発刊	

平成27年度山梨県スポーツ指導者協議会事業計画

年	月日(曜日)	事業名	会場等
平成27年	4月4日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	小瀬中銀スタジアム他
	4月22日(水)	平成26年度 会計監査	小瀬管理事務所会議室
	5月15日(金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月20日(水)	第1回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月6日(土)	平成27年度 山梨県スポーツ指導者協議会総会 及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月10日(金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	7月15日(水)	第2回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	8月~9月上旬	第2回研修会	未定
	11月13日(金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月18日(水)	第3回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	11月~1月上旬	第3回研修会	未定
	12月11日(金)頃	平成27年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
	12月12日(土)頃	平成27年度公認スポーツ指導者等表彰式 全国研修会	東京都
平成28年	未定	会員特別講習会	未定
	2月12日(金)	第4回執行部会議	小瀬体育館会議室
	2月17日(水)	第4回理事会・専門部会	小瀬体育館研修室
	3月下旬	会報第26号発刊	



表紙を一転しましたが如何でしょうか。

昨年、県内二六市町村が  
防炎体制の見直しを行いま  
した。会員の馴染みある会  
報を目指し、見直しを行い  
ながらの編集にと考えてい  
ます。ご意見が頂戴でき  
たら幸甚です。

編集：広報普及部

発行元

山梨県スポーツ指導者協議会

(事務局)

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町 840

公益財団法人 山梨県体育協会内

TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599